

# 朝日のあたる川

赤貧につぼん釣りの旅二万三千キロ

cover illust いましろたかし

○不思議な旅の物語である。頁を繰ると、そこに広がる風景は雨上がりのようにいつも滲んでいる。吹く風は、いつもやわらかく澄んでいる。

○真柄慎一の眼を通すと、日本の風土と日本の人々はまだまだ捨てたものではないものとしてそこにある。ゆたかさを目ざして突っ走り、かさかさ、がさがさ、ぎすぎすしたいまの日本の風景はない。



○そこには、ひと昔前の日本人のころと人の交わり、山と海と川にかこまれて生きる市井の人々の暮らしがどっしりと存在している。この物語の真骨頂は、そこにある。

○釣りの旅というよりも、様々なことに出会いながら、自身のところに釣り糸を垂らす旅といえるかもしれない。

渡辺裕一（巻末解説「水の巡礼」より）

29歳、家無し、職無し、彼女あり。

上京10年、ミュージシャンの夢はかなわなかった。  
仕事もアパートも捨て、新しい夢—日本縦断釣りの旅へ出た。  
僕に残っているのは、釣り仲間と彼女のエミ。

こんな僕にも朝日はのぼる！

元気な  
新刊



『フライの雑誌』から飛び出した  
につぼん遅咲き青春感動旅日記！

真柄慎一 = 著  
Shinichi Magara

新書判 264頁 税込 1,200円  
ISBN978-939003-41-7